

2009年12月度のトピックス

12月31日

駒場での高校サッカー応援に野球部員



初の全国大会に出場しサッカー部の応援に、硬式野球部員6名が参加した。2年生5名と3年生1名である。2年生は前日の30日が年内最終練習。この日は全校からの希望者が京都駅に集結し、石川生徒部長と共に新幹線で首都圏へ移動。秋田商業との1回戦にスタンドから声援を送った。試合は競り合いながらも勝ち、2回戦へ進出。2回戦は2日に埼玉スタジアムで行われるが、部員の中には「事前の申し込みはしていないのですが、2回戦も応援に参加してもいいのでしょうか」という気合いの入れようであった。

12月24日

全国大会出場クラブにエールを送る



年内最後の登校となったこの日は、体育館で全校生徒の激励集会が行われた。中高6学年が一斉に集まった企画は本校でも初といってもよく、全国大会に出場するクラブが多く出たこの機会に実施された。硬式野球部は近畿大会でベスト4に進出したものの、春の選抜大会への出場の有無は現段階では未定。今回は出場するクラブへのエールを送る側に回った。紺のVジャンプで揃えた47名の部員が、春名団長の指揮の下、全校生徒の前で「フレー、フレー立宇治」と大合唱でエールを送り、2回目は全校生徒が野球部員とともに唱和した。

12月23日

クリスマスボウル応援に部員が東京へ



念願の日本一へ王手をかけ、創部史上初のクリスマスボウルへの出場を決めたアメリカンフットボール部の応援に、3年生部員6名が東京・味の素スタジアムに駆けつけた。全校企画された応援バスツアーに6名が申し込み、22日の深夜出発で23日正午キックオフの試合に、熱い声援を送った。夏の選手権京都大会では多くの生徒から応援されたが、その時の感謝の気持ちと練習で参加できない後輩部員の分まで、スタジアム観客席から大きな声を張り上げた。

(頻回参加した3年生は山口拓也、田村知一、手島

佑弥、木津雄貴、森飛鳥、小林和路、阪口尚弥の各
部員)

12月20日

陸上部の「伝統」を肌で感じる…。



この日は第1回大会から21年連続出場を誇る高校女子駅伝。午前中の練習をやめ、1~2年全部員がクラスで決められ応援ポイントで沿道から声援を送った。この応援は硬式野球部でもすっかり恒例の行事となったが、やはり舞台は「全国」だけに、同じアスリートとして、その偉業と重みを感じてもらいたいところ。前日のミーティングでも卯瀧監督から「陸上部は一昨年が全国優勝、昨年在3位。そして昨年の3位はその前年に比べて輝きが少ないという見方をする人がいるが、とんでもない。全国でベスト4。甲子園なら春なら3つ、夏なら4つ勝って届く成績。そのことを感じ、今の自分が来シーズンに向けてどれだけ努力できているかを振り返ってもらいたい」と話された。

12月12日

こうすれば頑張らざるを得ませんよね



ある日、卯瀧監督から「ストップウォッチを12個注文しました」との連絡があり、「そんなに大量に??」と思ったのがこれ。午前メニューの終わりに行われる30メートルダッシュである。47名の部員が12カ所に分かれての30メートルダッシュ。普通に30メートルという設定をすれば、多くの部員が20数メートルで力が抜ける。しかし1回1回タイムを計られるとそうはいかない。今のテーマは「スタートの一步を踏み込んでから30メートルを4秒未満」というもの。本数は多くないが、大声でタイムが叫ばれるので部員は手を抜けない。しかも12カ所で同時に行われるため、一組は3~4名という密度である。

12月12日

寒いときもずっと続ける練習です



アウトオブシーズンになるとシーズン中とはメニューが異なるが、卯瀧監督は「これだけは」と続ける実践トレーニングのひとつが「投内連携」である。投手を中心としたバント処理、投手と1塁手のゴロの連携など、試合でミスすれば命取りになりかねないプレーである。寒風の吹き荒れる中でも、ウォーミングアップのすぐ後に12分間走が行われ、玉のような汗が噴き出す中で即着替え、キャッチボールに続いて行われる。時間にして10数分だが、今年は人数が多いため、グラウンドには2カ所のダイヤモンドを作り、全員が参加している。「寒い日でも投手は球数は少なくとも毎日ピッチング」というのも卯瀧流である。

平成21年度

秋季近畿地区高等学校野球大会 速報

11月1日（日） 準決勝 対大阪桐蔭 （皇子山球場）

弱点を全て露呈し、完敗!!

(大阪府1位)
○大阪桐蔭 220 050 0=9
●立命館宇治 000 010 0=1 (7回コールド)
(京都府1位)

【大】中野、山中-江村【立】川部-小嵯
▼3塁打 市川、山口(大) ▼2塁打 江村2(大)



快進撃の根幹であったディフェンスが序盤から乱れ、良いところなく完敗した。特に5回には3安打に3失策が絡み、ビッグイニングを与えてしまった。先発の川部は11安打されたが、自責点は4。

立ち上がりから4点を追いかける展開となった打線は5回にようやく3連打で1点を返したが、今までなら抜けていた当たりも難なく処理する固いディフェンスの前になすすべも

なかった。

「近畿大会2勝」を目標にしてきたチームと全国で勝つことを目標にしているチームのモチベーションの差が露骨に出た。ベスト4進出により笑顔の円陣から戦いに挑む姿勢に序盤から勝負はあった。

※写真はピンチの連続にマウンドに集まる内野陣。

10月25日（日） 準々決勝 対智辯和歌山 （皇子山球場）

打順の組み替えズバリ的中!!

(和歌山県1位)
●智辯和歌山 100 110 012=6
○立命館宇治 011 000 50X=7X
(京都府1位)

【智】青木、吉本-道端【立】川部-小嵯
▼2塁打 城山、山本(智) 清水(立)

1点を追う立命館宇治は7回裏、1死から1番・土肥が中前打で出塁すると、2番・服部が送り、2死2塁。続く3番・西川の死球、4番・古川の四球で満塁とすると、5番・小嵯が鮮やかに中前へはじき返し逆転。6番・田口の左前打で2点差。7番・清水の左中間2塁打で4点差とリードした。

試合は打力に勝る智辯和歌山に先制されたが、「終盤まで1点差で食らいつけば必ず逆転できる」という監督の言葉を信じ、中盤までゲームメイ



クしたことが生きた。また今大会打率2割と全く当たっていなかった9番・清水を「今日は鍵を握る男になる」と打順を上げた采配も的中した。終盤に智辯和歌山の意地の猛反撃にあったが何とか凌いだ。

先発・川部は強力打線の智辯和歌山に対し、ビッグイニングを与えず、今大会初の奪三振0ながら、四球も1と制球が安定し、バックも1回戦に続いて無失策で応えた。

立命館宇治は6年ぶりに近畿大会でベスト4に進出し、奇しくも6年前と同じ準決勝で同じ大阪桐蔭（大阪府1位）との対戦が決まった。

※写真は7回裏、小寄のタイムリーで逆転のホームインをした西川進士郎（2年）

10月17日（土） 1回戦 対東海大仰星 （皇子山球場）

終盤にようやく突き放す!!

（京都府1位）

○立命館宇治 000 010 014=6

●東海大仰星 000 000 001=1

（大阪府3位）

【立】川部-小寄【東】勢-田上

▼2塁打 田上2（東）土肥、西川（立）



立命館宇治は5回、先頭の1番・土肥が左翼越2塁打を放ち、送りバントで1死3塁の先制機を迎えると、3番・西川が鮮やかに中前にはじき返して先制。また8回には1死1・3塁から2番・服部が貴重な追加点となる中前タイムリーを放った。9回には相手失策と四球で得た2死1・2塁にエンドランを敢行。緩いゴロが三遊間に転がる（記録は内野安打）間に、田口が一気に生還し、3点目。なおも

四球で満塁と攻め立て、西川が左柵直撃の走者一掃の2塁打で勝負を決めた。

打線は3・4回以外は毎回スコアリングポジションに走者を置きながら、タイムリーが出ず、終盤まで苦しむ大きな要因となり、また送りバントの精度が上がっていなかった。

先発・川部は本来の出来とはほど遠かったが、7回1死から突如3連続四球で満塁のピンチ（連続三振で切り抜け）と勝ちを意識した9回にタイムリーで1点を取られたが、バックの無失策もあり完投した。

※写真は3点目のホームインで喜ぶ田口（2年）

| 番号 | 守備 | 名前 | 学年 | 出身中学 | 出身チーム | 投 | 打 |
|----|----|-------|----|----------|-------------------|---|---|
| 1 | 投 | 川部 開大 | 1 | 島本二 (大阪) | シニア・高槻 | 左 | 左 |
| 2 | 捕 | 小嵯 裕之 | 2 | 下 京 | 少年野球・西京ビッグスターズ | 右 | 右 |
| 3 | 一 | 服部 憲悟 | 2 | 榎 島 | ボーイズ・南山城ドラゴンズ | 右 | 左 |
| 4 | 二 | 清水 祐太 | 2 | 今 津 (大阪) | ボーイズ・八尾フレンド | 右 | 右 |
| 5 | 三 | 古川 昂樹 | 1 | 上牧二 (奈良) | ボーイズ・香芝 | 右 | 左 |
| 6 | 遊 | 土肥 純平 | 1 | 男山三 | 中学野球部 | 右 | 右 |
| 7 | 左 | 西川進士郎 | 2 | 佐井寺 (大阪) | ボーイズ・吹田千里山イーグルス | 右 | 右 |
| 8 | 中 | 岩本 翼 | 2 | 高 野 | 中学野球部 | 右 | 左 |
| 9 | 右 | 田口 真基 | 2 | 久御山 | 少年野球・西京ビッグスターズ | 右 | 左 |
| 10 | 投 | 中野 翔悟 | 2 | 京教大附桃山 | ボーイズ・オール枚方 | 右 | 右 |
| 11 | 投 | 堺 浩貴 | 2 | 勝 山 | 少年野球・長岡京シリウス | 左 | 左 |
| 12 | 投 | 岩見 晋悟 | 2 | 久美浜 | 少年野球・久美浜クラブ | 右 | 右 |
| 13 | 捕 | 小林 真人 | 1 | 島本二 (大阪) | 中学野球部 | 右 | 右 |
| 14 | 内 | 赤松 博文 | 1 | 池島 (大阪) | ボーイズ・バファローズ | 右 | 右 |
| 15 | 内 | 田中 遼太 | 1 | 大 枝 | ボーイズ・京都ホークス | 右 | 左 |
| 16 | 内 | 奥村 大志 | 2 | 洛 北 | 少年野球・京都西ベースボールクラブ | 右 | 右 |
| 17 | 外 | 坂井 勇太 | 2 | 枚方三 (大阪) | シニア・枚方 | 右 | 右 |
| 18 | 外 | 本庄 良仁 | 2 | 立命館宇治 | 中学野球部 | 右 | 右 |

平成21年度

秋季京都府高等学校野球大会 速報

2次戦

10月4日 (日) 決 勝 対福知山成美 (わかさスタジアム京都)

ロングリリーフ川部が強力打線を0封!!

●福知山成美 111 000 000=3

○立命館宇治 310 200 02X=8X

【福】津田、小林、山田-細田【立】岩見、川部-小嵯

▼2塁打 小嵯、土肥、古川、田口 (立)

立命館宇治は初回2死から連打でチャンスを作ると、5番・小嵯が左翼フェンス直撃の2塁打を放ち、相手失策も絡まって3点を先制した。続く2回には2死3塁から4番・古川の2塁打で4点目。4回には内野安打と7番・田口



のタイムリーで2点を追加した。何としてもだめ押し点のほしい8回には2死2・3塁から田口の中前打で勝利を大きくたぐり寄せた。

立命館宇治の先発・岩見は立ち上がりから制球が悪く、真ん中に球が集まるところをねらい打たれた。3回2死からリリーフに出た川部は懸命の投球で6回1/3を被安打3で0封した。

立命館宇治は旧・宇治時代を含めて6年ぶり3度目の優勝を果たし、17日から始まる近畿地区高等学校野球大会に京都府1位校として出場する。

※写真は3回2死からロングリリーフした川部（1年）

10月3日（土） 準決勝 対東山（わかさスタジアム京都）

終盤の猛攻に薄氷の逃げ切り!!

○立命館宇治 210 100 000=4

●東 山 000 010 101=3

【立】岩見、川部-小嵯【東】北垣内、柿崎-山崎

▼2塁打 北垣内、吉越2（東）



立命館宇治は初回2死2・3塁のチャンスに5番・小嵯が中前へはじき返して2点を先制。続く2回にも1死2・3塁から1番・土肥が犠飛を上げて3点目を追加した。4回には2死1・3塁に4番・古川のタイムリーで4点目を加え、一方的展開に持ち込むかに思えた。

先発の岩見は序盤から快調な投球を見せたが、7回2死から乱れて降板。1次戦以来の登板となった川部のリリーフを仰いだ。川部は2点差の最終回1点を取られ、なおも2死満塁と一打逆転サヨナラ負けのピンチを迎えたが、4番打者を右飛に打ち取り逃げ切った。

これで立命館宇治は10月17日より滋賀県・皇子山球場で行われる秋季近畿地区高等学校野球大会への出場権を獲得した。

※写真は先制タイムリーを放った小嵯（2年）

9月26日（土） 準々決勝 対洛星（わかさスタジアム京都）

先発・岩見が被安打2で完投!!

●洛 星 000 000 001=1

○立命館宇治 002 000 00x=2X

【洛】安居-山口【立】岩見-小嵯



立命館宇治は3回2死から1番・土肥が右前打で出塁すると、続く服部も鮮やかに1・2塁間を破り、相手失策の間に先制。続く3番・西川のタイムリーで2点目を加えた。しかし以降は洛星・安居投手のスライダーとストレートのコンビネーションにタイミングが合わず、9回までの5イニングで1安打のみ。特にチャンスでのフライアウトが目立った。

逆に不安視された投手陣は、この試合直前に登録され、先発した岩見が立ち上がりから130台半ばのストレートと変化球を巧みに配し、被安打2で完投。四死球は6であったが、バックは無失策で応えた。これで今大会5試合で4人目の勝利投手となった。

※写真は今大会初登板で完投勝利した岩見（2年）

| | 番号 | 名前 | 学年 | 出身中学 | 出身チーム | 投 | 打 |
|---|----|-------|----|------|-------------|---|---|
| 新 | 12 | 岩見 晋悟 | 2 | 久美浜 | 少年野球・久美浜クラブ | 右 | 右 |
| 旧 | | 林 俊之介 | 1 | 立命館 | 中学野球部 | 右 | 右 |

9月20日（日） 2回戦 対桂 （太陽が丘球場）

中盤以降、らしさを発揮

- 桂 100 000 0=1
 - 立命館宇治 000 102 5=8x （7回コールド）
- 【桂】浜口-平塚【立】堺-小寄
▼3塁打 岩本（立）▼2塁打 田口（立）



初回、併殺崩れの間には1点を先制された立命館宇治は、3回まで桂のエース・浜口の緩急自在の投球に翻弄され無安打。しかし4回に相手失策から同点に追いつくと、6回には1死満塁から8番・堺の右前打で勝ち越し。続く7回には長短4安打とバッテリー間の乱れで一気にコールドに持ち込んだ。

公式戦初登板の先発・堺は立ち上がりにリズムをつかめなかったが、3回以降は立ち直り、ブロック1位校の桂を突き放した。

※写真は公式戦初先発の堺（2年）

2次戦メンバー

| 番号 | 守備 | 名前 | 学年 | 出身中学 | 出身チーム | 投 | 打 |
|----|----|-------|----|----------|-------------------|---|---|
| 1 | 投 | 川部 開大 | 1 | 島本二 (大阪) | シニア・高槻 | 左 | 左 |
| 2 | 捕 | 小嵯 裕之 | 2 | 下 京 | 少年野球・西京ビッグスターズ | 右 | 右 |
| 3 | 一 | 服部 憲悟 | 2 | 模 島 | ボーイズ・南山城ドラゴンズ | 右 | 左 |
| 4 | 二 | 清水 祐太 | 2 | 今 津 (大阪) | ボーイズ・八尾フレンド | 右 | 右 |
| 5 | 三 | 古川 昂樹 | 1 | 上牧二 (奈良) | ボーイズ・香芝 | 右 | 左 |
| 6 | 遊 | 土肥 純平 | 1 | 男山三 | 中学野球部 | 右 | 右 |
| 7 | 左 | 西川進士郎 | 2 | 佐井寺 (大阪) | ボーイズ・吹田千里山イーグルス | 右 | 右 |
| 8 | 中 | 岩本 翼 | 2 | 高 野 | 中学野球部 | 右 | 左 |
| 9 | 右 | 田口 真基 | 2 | 久御山 | 少年野球・西京ビッグスターズ | 右 | 左 |
| 10 | 投 | 中野 翔悟 | 2 | 京教大附桃山 | ボーイズ・オール枚方 | 右 | 右 |
| 11 | 投 | 堺 浩貴 | 2 | 勝 山 | 少年野球・長岡京シリウス | 左 | 左 |
| 12 | 投 | 林 俊之介 | 1 | 立命館 | 中学野球部 | 右 | 右 |
| 13 | 捕 | 小林 真人 | 1 | 島本二 (大阪) | 中学野球部 | 右 | 右 |
| 14 | 内 | 赤松 博文 | 1 | 池島 (大阪) | ボーイズ・バファローズ | 右 | 右 |
| 15 | 内 | 田中 遼太 | 1 | 大 枝 | ボーイズ・京都ホークス | 右 | 左 |
| 16 | 内 | 奥村 大志 | 2 | 洛 北 | 少年野球・京都西ベースボールクラブ | 右 | 右 |
| 17 | 外 | 坂井 勇太 | 2 | 枚方三 (大阪) | シニア・枚方 | 右 | 右 |
| 18 | 外 | 本庄 良仁 | 2 | 立命館宇治 | 中学野球部 | 右 | 右 |

1次戦

9月6日 (日) 決勝 対塔 南 (立命館宇治)

2次戦進出も投手陣に不安!!

○立命館宇治 001 103 020 7=14

●塔 南 001 003 120 3=10 (延長10回)

【立】川部、中野-小嵯【塔】森脇-駒月

▼本塁打 駒月 (塔) ▼3塁打 小嵯、土肥 (立) 上山、草原 (塔)

▼2塁打 小嵯、岩本2 (立) 上山、森脇、駒月 (塔)



7-7で延長戦に突入した10回、立命館宇治は1死2塁のチャンスに5番・小嵯が左中間を破る勝ち越しタイムリーを放つと、6番以下が3連打。9番が倒れたあと、1番から3連打とこの回長短8安打を集中し、後半点取り合戦となった試合にけりをつけた。春に対戦が実現しなかった塔南エース森脇に対し、初回から

果敢に攻め、終わってみれば先発全員の21安打を放った。

しかし一方で立命館宇治のエース川部は打たれ出すと冷静さを欠く投球は前回と変わらぬまま。最大4点のリードを守れず8回に降板した。この日はリリーフした中野も10回に7点のリードから3点を奪われ、2次戦に向けて投手陣に不安を残す結果となった。

※写真は10回に勝ち越しタイムリーを放った小嵯（2年）

8月29日（土） 2回戦 対立命館 （立命館宇治）

中盤から猛攻!! 連続コールド

●立命館 001 300 00=4

○立命館宇治 000 420 32=11x（8回コールド）

【立】小谷、太田-小林【宇】川部、中野-小嵯

▼3塁打 小林（立）▼2塁打 辯（立）清水（宇）



4点を先行された立命館宇治は4回1死、連続四球から得たチャンスに6番・岩本がタイムリーを放ち、続く7番・清水、8番・奥村とたたみかけ、一気に同点に追いついた。5回には1死2・3塁から岩本のタイムリーと清水の犠牲フライで勝ち越した。これで勢いづいた立命館宇治は7～8回にも連打を浴びせて勝負

を決めた。

先発した川部は立ち上がりこそ無難なスタートを切ったが、4回には長短4安打を集中され、降板。リリーフした中野が冷静な投球で火の付きかけた立命館打線をかわした。

※写真は同点タイムリーを放った奥村（2年）

8月23日（日） 1回戦 対園部 （立命館宇治）

初回から猛攻!! 5回コールド

●園部 000 00=0

○立命館宇治 420 5x=11x（5回コールド）

【園】片山-明田【立】川部-小嵯

▼2塁打 田口、岩本、清水（立）



序盤から連打でたたみかけ、勝負を一気に決めた。

初回1死3塁から3番・西川、4番・田口、5番・小嵯、6番・岩本と4連打で4点を先制し、続く2回にも3～4番の連続長短打で2点を追加。さらに4回には3安打と三四死球で5点を取った。

先発した川部は変化球をほぼ封印し、ストレートのみで勝負。打者18人に対し、イレギュラーバウンドによる内野安打1のみで0封した。

1次戦メンバー

| 番号 | 守備 | 名前 | 学年 | 出身中学 | 出身チーム | 投 | 打 |
|----|----|-------|----|----------|-------------------|---|---|
| 1 | 投 | 川部 開大 | 1 | 島本二 (大阪) | シニア・高槻 | 左 | 左 |
| 2 | 捕 | 小嵯 裕之 | 2 | 下 京 | 少年野球・西京ビッグスターズ | 右 | 右 |
| 3 | 一 | 服部 憲悟 | 2 | 模 島 | ボーイズ・南山城ドラゴンズ | 右 | 左 |
| 4 | 二 | 清水 祐太 | 2 | 今 津 (大阪) | ボーイズ・八尾フレンド | 右 | 右 |
| 5 | 三 | 蔵立 涼太 | 1 | 松 原 | ボーイズ・京都スターズ | 右 | 右 |
| 6 | 遊 | 土肥 純平 | 1 | 男山三 | 中学野球部 | 右 | 右 |
| 7 | 左 | 西川進士郎 | 2 | 佐井寺 (大阪) | ボーイズ・吹田千里山イーグルス | 右 | 右 |
| 8 | 中 | 田口 真基 | 2 | 久御山 | 少年野球・西京ビッグスターズ | 右 | 左 |
| 9 | 右 | 岩本 翼 | 2 | 高 野 | 中学野球部 | 右 | 左 |
| 10 | 投 | 中野 翔悟 | 2 | 京教大附桃山 | ボーイズ・オール枚方 | 右 | 右 |
| 11 | 投 | 堺 浩貴 | 2 | 勝 山 | 少年野球・長岡京シリウス | 左 | 左 |
| 12 | 投 | 福本 拓也 | 1 | 山崎東 (兵庫) | 中学野球部 | 左 | 左 |
| 13 | 捕 | 小林 真人 | 1 | 島本二 (大阪) | 中学野球部 | 右 | 右 |
| 14 | 内 | 赤松 博文 | 1 | 池島 (大阪) | ボーイズ・バファローズ | 右 | 右 |
| 15 | 内 | 田中 遼太 | 1 | 大 枝 | ボーイズ・京都ホークス | 右 | 左 |
| 16 | 内 | 奥村 大志 | 2 | 洛 北 | 少年野球・京都西ベースボールクラブ | 右 | 右 |
| 17 | 外 | 坂井 勇太 | 2 | 枚方三 (大阪) | シニア・枚方 | 右 | 右 |
| 18 | 外 | 本庄 良仁 | 2 | 立命館宇治 | 中学野球部 | 右 | 右 |

2009年11月度のトピックス

平成21年度秋季近畿地区高等学校野球大会 速報

11月27日

何日ぶり!? 47名全員で練習再開



本日で後期中間テストも終わり、午後から全部員がグラウンドに集合し、全体練習を再開した。学業不振でかなり早くから勉強に集中していた者、インフルエンザの欠席者を考慮すると、約2ヶ月ぶりの全集合となる。この日から冬メニュー。グループに分かれてローテーションでメニューをこなしていくが、昨年よりも人数が多く、何をやるにも時間がかかる。これに練習開始時に「12分間走」、締めに「坂道ダッシュ」と加わるため、主将と主務は練習の段取りを組むのにホワイトボードとにらめっこであった。また全体練習終了後も個人練習にほぼ全員が残り、照明の下、黙々と課題に取り組んだ。

11月15日

今シーズン最終戦を実施



この日の練習試合が今シーズンの最終戦となった。やはり日中は日が差さないと寒い。8月23日から始まった秋季大会はほぼ2ヶ月半に及び、その前後の試合を含めると44試合となった。結果は35勝8敗1分（公式戦9勝1敗）であったが、この日も2試合目は秋のメンバー外の選手が積極的に起用された。インフルエンザの影響で多くの欠席者が出た週間であったが、前日までの欠席者も含めて積極的に起用。「投手陣以外の野手組は全員使う」と卯瀧監督も名前の入ったホワイトボードとスコアブックの両方を確認しながらの采配となった。

11月15日

保護者会臨時総会を実施



秋季大会期間中のため、なかなか実施できなかった保護者会臨時総会が生徒寮フィリッツハウスの食堂で実施された。冒頭で卯瀧監督から秋季大会応援のお礼があり、石川部長からは「近畿大会上位進出を受けて」というタイトルで、保護者への訴えかけがあった。確かに近畿大会ではベスト4に進出したが、「春の確約ではない」ということが改めて確認され、「さらに自らの行動を律する」という守りの側面と、来春に向けて「野球選手としてさらに向上する」という攻めの側面が強調された。

11月14日

待望のスコアボードがセンター後方に



「今どこと試合していて何対何??」「せっかく公式戦を観に行っても得点がわからない」など色々と不便であったスコアボードであったが、今回センター後方に着工が始まり、週末にはほぼ完成した。汐崎校長が春季大会の応援に駆けつけてくださった際に「何とか設置の方向で考えよう」という提案を下さり、今回の設置のとなった。サイズは大きいものを望めばきりが無い。大学の野球部グラウンドに設置されているサイズを参考に、「今回は地元企業に」という学校の意向で、工事が始まり、正式には週明けに仕上がる。今シーズンの試合には間に合わなかったが、来シーズンからは大活躍するはずだ。

11月8日

ついに来たか.....。インフルエンザ渦



大阪桐蔭戦の前日に新型インフルエンザと診断された部員を皮切りに、週末には10名以上が発熱を訴えてクラブに参加できなかった。またグラウンドにいる部員も体温計を脇にさし、発熱が確認されて途中帰宅する部員が2名。全員が新型ではなく季節性の者もいるが、近畿大会が終わってちょうど1週間。「やはり来たか...」という思いと、「1週間遅くて良かった...」という思いが交錯する。この日の練習試合は午後から全員出場のチャンスがあったが、サポートする部員は明らかに不足。勿論秋のレギュラーも午後からは裏方として精力的に動いた。

11月8日

練習試合も残り僅か...新戦力の発掘



近畿大会前に練習試合を行ったが、あくまでも大会をにらんでのもの。「色々な選手を試したい」という試合は久しぶり。言うまでもなく近畿大会ベスト4はメンバー18名のものでなく、支援要員として頑張ってくれた3年生を含めて硬式野球部員のものである。従って来春以降のメンバー構成は全く未定で、「このままでは勝てないのは事実」（卯瀧監督談）。この日の練習試合は第1試合が終了すると、相手チームの協力を得て、午後からは6イニング制3試合が行われた。この日参加していた全部員にチャンスが与えられた。夕刻のミーティングでは「現段階で春のメンバーを選ぶとしたら、君は残念ながら×だ」という厳しい言葉もあった。

2009年10月度のトピックス

10月18日

「精度」を高める....。和歌智戦に備えて



近畿大会の各校の戦いぶりを見ていると、序盤から楽に得点できているケースは少なく、どこのチームにもプレッシャーがかかっていることがうかがえる。立命館宇治も15安打を放ちながら16残塁を喫し、終盤まではどう転んでもおかしくない展開であった。結果的に「快勝」と報じられたが、反省点は多い。まずバントがきっちり決まらない。6犠打を記録したが、失敗もあった。またセーフティバントなどの仕掛けも出来ずに終わった。「失敗するのは決勝戦の時と同じメンバー」と卯瀧監督の妥協を許さない。さらに厳しい戦いが予想される智辯和歌山戦はその辺りからもう一度取り組まなければならない。

10月4日

目標はまだ先...。優勝後、即グランド練習



秋季大会決勝戦で福知山成美に勝った余韻に浸る暇などない。ベンチ裏に戻り、そそくさと後片付けを終わらせ、取材を終えると、すぐにグランドに戻る段取りをした。勿論多くの関係者が球場出口で迎えてくれたが、「立ち止まって話してはいけない。会釈でいい」と卯瀧監督から言われており、40分後にはグランドに到着。「今日の試合でも送りバントが決まらない。肝心なところでボールが握れない・捕れないなど反省点はある。ましてメンバー外はこの2日間練習していない。今からすぐ課題練習にとりかかりなさい」と話され、部員も当然といった受け止め方で日が暮れるまで練習に黙々と励んだ。

2009年9月度のトピックス

9月15日

一喜一憂は三流の証...2次戦抽選会



2次戦の抽選会が洛西高校で行われた。1次戦を勝ち上がった20校と夏の優勝校・龍谷大平安を加えた21校で行われたが、初戦の相手はベスト8をかけてブロック1位校の桂との対戦が決まった。もともと普段は物静かな小崎主将だが、抽選前も後も表情は全く変わらない。

グラウンドに戻ってからのミーティングでも卯瀧先生から「抽選の結果で一喜一憂している奴は三流の証。この時期の高校生は1週間で急速な変化を遂げる。うちも進歩するチームでなければ近畿大会へは行けない」と厳しく指摘された。そう、ここからは負けが許されない一発勝負のトーナメントに突入するのである。

※この記事から写真サイズを大きくしました。

9月6日

喜べぬ勝利....。試合後の猛反省練習



激戦と言われた1次戦Bブロックを勝ち抜いたが、今日のブロック決勝戦は内容がひどく、「2試合分疲れた」「勝っても喜べない」というのが本音。攻守の至る所に反省点が見られた。試合後すぐにメンバーを部室に入れた卯瀧先生は約40分間のミーティング。そして第2試合の終了を待って、即反省の練習が始まった。途中何度も集合がかかり「お前たちの心の中にまだ『勝ったのだから良い』という気持ちがあり、それが今の練習態度に表れている。それでは負ければ終わりの2次戦は勝ち抜けない」と厳しい言葉がグラウンドに響き渡った。

硬式野球部 TOP PAGEへ

2009年8月度のトピックス

8月10日

試合だけでなく...。3年目の広島遠征実施



この時期の恒例となった広島県遠征が8日から3泊4日で行われた。今年は過去最高の47名での行動となったため、バスの乗り降りや宿舎での生活にも「迅速に」「時間通りに」が何度も口やかましく言われた。試合だけでなく、夜にはミーティングもあり、また夜はクリーニング以外は全て外出禁止となってるため、部員は各部屋で夏休みの宿題をして過ごした。また石川部長からの宿題で、全部員が「両親への感謝の気持ち」を込めて、絵はがきを郵送した。試合は負け魅したが、野球も含めて様々なことを学べたはずである。

8月7日

3年生が大学硬式野球部練習に参加



選手権京都大会が終わると、3年生は大学で硬式野球を続けるのか、準硬式野球に入部するのか、他の競技にチャレンジするのかという選択をしなければならず、これが学部選択の一要因となることもある。今年は3年生3名が「大学で硬式野球を」と名乗りを上げ、この日、石川部長に連れられて大学の野球部を訪れた。お昼過ぎまでであったが、大学生に混じって練習し、その後、中村助監督から面談を受けた。勿論、「実力不足」「意欲が足りない」と判断されれば希望通りになるとは限らないが、参加した部員は「夏の大会より緊張しましたが、実力を発揮し、アピールもできました」と安心した様子であった。

硬式野球部 TOP PAGE^

7月23日(木) 4回戦 対京都成章 (わかさスタジアム京都)

望み通りの展開も後一本出ず惜敗

○京都成章 001 000 200=3

●立命館宇治 000 002 000=2

【京】宮本、吉田-塩見【立】中野、川部-小嵯

▼2塁打 有本、黒田(京) 山口、古川(立)



「実力、勢いとも向こうが上。終盤まで相手の1点差リードで耐え、終盤に一気に逆転する」というもくろみ通り展開に持ち込めたが、後一本が出ず、惜敗した。

試合が動いたのは守りのミスから。4回1死3塁から内野ゴロ失策で先制されたが、今大会3度目の登板の中野はこの日はストレート変化球共にさえ、終盤に望みを繋いだ。

1点を追う立命館宇治は6回先頭の山口が右中間を破る二塁打で出塁し、送りバントで1死3塁とすると、今大会の当たり屋・西川が同点タイムリー。続く小嵯の右前打でチャンスをさらに広げると、相手の暴投で逆転した。

直後の7回に再び暴投と内野ゴロで逆転されたが、7回には無死2塁、8回には1死2塁の同点機を逸し、後一歩が及ばなかった。

※写真は今大会一番の投球を見せた中野翔吾(2年)

7月19日(日) 3回戦 対東 稜 (わかさスタジアム京都)

序盤から次々と加点!!

●東 稜 000 002 001=3

○立命館宇治 112 020 00X=7X

【東】田中宏-山田【立】中野、川部-小嵯

▼本塁打 田口(立)

▼2塁打 小嵯(立)



序盤から休まずに加点した立命館宇治が終始試合を優位に進めた。初回、先頭の山口が中前打で出塁すると、続く2番・服部の右前打で無死1・3塁とし、3番・西川の犠飛で先制。続く2回には5番・田口の大会第23号ソロで加点した。5回には無死1・3塁から4番・小嵯の左翼線2塁打で2点を追加した。

先発・中野は5回まで快調なペースで投球したが、6回に2四球2安打で降板。リリーフした3イニング打者12人・被安打1で締めくくった。

リリーフ川部という図式は出来上がりつつあるが、夏場のトーナメントを考えると、2年生先発投手がいかに長いイニングを踏ん張れるかが鍵となる。

※写真は大会24号を放った田口真基（2年）

7月16日（木） 2回戦 対西舞鶴 （太陽が丘球場）

西川、値千金の逆転スリーラン!!

○立命館宇治 200 013 031=10

●西 舞 鶴 012 010 000=4

【立】岩見、中野、川部-小嵯【西】屋敷、福原、小室-新宮

▼本塁打 西川（立）

▼2塁打 永野2、夏原、國屋（西） 田口、古川

（立）



立命館宇治は1点を追う6回、2死から1番・山口が中前打で出塁すると、続く服部が四球で繋ぎ1・2塁とし、3番・西川が左翼席へ豪快に3点本塁打を打ち、逆転した。後半に向けて雰囲気重苦しくなりかかる頃ただけに、値千金の一打となった。8回には1死満塁から4番・小嵯の犠飛と5番・田口の2塁打で加点し、大勢を決めた。

初回に先頭の山口から3連打であっさり2点を先制し、以降も優位に試合を進めるかに思えたが、公式戦初先発の岩見が乱調であっさり3回で降板。再び同点に追いついた後もリリーフ中野が簡単に捕まった。逆に5回1死から登板した1年生・川部は火の突きかかった西舞鶴打線に対し打者16人、被安打0奪三振8と完全に封じ込んで、勝利をたぐり寄せた。

※写真はこの日は逆転のスリーランを放った西川進士郎（2年）

大会登録メンバー

| 番号 | 守備 | 名前 | 学年 | 出身中学 | 出身チーム | 投 | 打 |
|----|----|-------|----|---------|----------------|---|---|
| 1 | 投 | 岩見 晋悟 | 2 | 久美浜 | 少年野球・久美浜クラブ | 右 | 右 |
| 2 | 捕 | 小嵯 裕之 | 2 | 下京 | 少年野球・西京ビッガスターズ | 右 | 右 |
| 3 | 一 | 服部 憲悟 | 2 | 榎島 | ボーイズ・南山城ドラゴンズ | 右 | 左 |
| 4 | 二 | 森 飛鳥 | 3 | 久居（三重） | シニア・津 | 右 | 右 |
| 5 | 三 | 古川 昂樹 | 1 | 上牧二（奈良） | ボーイズ・香芝 | 右 | 左 |
| 6 | 遊 | 清水 祐太 | 2 | 今津（大阪） | ボーイズ・八尾フレンド | 右 | 右 |
| 7 | 左 | 西川進士郎 | 2 | 佐井寺（大阪） | ボーイズ・吹田千里山イグル | 右 | 右 |

| | | | | | | | |
|----|---|-------|---|----------|----------------|---|---|
| 8 | 中 | 山口 拓也 | 3 | 浅香山 (大阪) | ボーイズ・ジュニアホークス | 右 | 右 |
| 9 | 右 | 田口 真基 | 2 | 久御山 | 少年野球・西京ビッグスターズ | 右 | 左 |
| 10 | 内 | 今西晃次郎 | 3 | 立命館宇治 | 中学野球部 | 右 | 右 |
| 11 | 投 | 中野 翔悟 | 2 | 付属桃山 | ボーイズ・オール枚方 | 右 | 右 |
| 12 | 投 | 川部 開太 | 1 | 島本二 (大阪) | シニア・高槻 | 左 | 左 |
| 13 | 投 | 林 俊之介 | 1 | 立命館 | 中学野球部 | 右 | 右 |
| 14 | 捕 | 小林 真人 | 1 | 島本二 (大阪) | 中学野球部 | 右 | 右 |
| 15 | 内 | 小林 和路 | 3 | 精華西 | シニア・奈良 | 右 | 右 |
| 16 | 内 | 岩本 翼 | 2 | 高野 | 中学野球部 | 右 | 左 |
| 17 | 外 | 藤尾祥太郎 | 3 | 朝来 (兵庫) | ヤング・但馬BBC | 右 | 左 |
| 18 | 外 | 藤井 直也 | 3 | 桜丘 (大阪) | ボーイズ・交野 | 右 | 右 |

[硬式野球部 TOP PAGE](#)^

2009年7月度のトピックス

第91回全国高等学校野球選手権京都大会 特集

7月30日

新チーム初の練習試合で連勝スタート



選手権京都大会で敗れた23日午後からスタートした新チームはこの日が初の練習試合。夏のレギュラーが7名残るが、彼らに秋のレギュラーが保証されているわけではない。「むしろ同じメンバーで戦わなければならないのなら厳しい」と、この日の練習試合でも様々なメンバーが試された。投手陣も夏にベンチ入りした4名を除き、満を持して登板した6名が2試合を3イニングずつ投げ、18イニングで1失点とまずまずのスタート。この時期行われる恒例の「失点ダッシュ」は過去のない少ないものとなった。

7月20日

当然の光景 「メンバー調整=新チーム練習」



選手権京都大会が終わると休養日を設けて新チームをスタートさせる学校は多い。しかし卯瀧野球にはその方式は当てはまらない。現チームの強化練習が終わり調整練習に入るすぐに新チーム練習をスタートさせる。大会が終わってから新チームをスタートさせていたのでは、8月下旬から始まる秋季大会には遅いとの判断からである。現チームの調整練習は2~3時間程度で終わり、午後からはメンバー外の1~2年生で延々と練習が続く。特に秋は「守れない者からはずしていく」方式のため、この日も全員でのボール回しの後、シートノックが行われた。

7月4日

後1週間!! 大会に向けて激励会実施



選手権京都大会開幕まで後1週間となったこの日、保護者会主催の激励会がパルティール宇治で行われた。保護者会長、石川部長、来賓からの挨拶の後、準備された料理は部員たちに猛烈な勢いで胃袋に収められた。後半の部では各学年がステージに上がり、代表者が決意表明した。また保護者会からは恒例の千羽鶴が手渡された。最後に卯瀧監督から謝辞と決意が述べられ、盛会のうちに終了した。

いよいよ8日にメンバーが発表され、11日に開会式を迎える。

2009年6月度のトピックス

6月27日

抽選会へ!! 初戦の対戦相手が決定



27日は京都外大森田記念講堂で選手権京都大会の抽選会が行われた。三室戸グランドでの練習試合を終えた山口主将と外村主務が出席。シード校として5番目にくじを引いた。Gブロックは準々決勝で福知山成美と当たるブロックだが、抽選が進行しても立命館宇治の周りはなかなか学校名が埋まってこなかった。結局は春秋ともに2次戦進出を果たしている洛北と西舞鶴の勝者との対戦が決定。初戦は太陽が丘だが、以降は全てわかさスタジアムとなった。しかし「西舞鶴は強い」という他校からの情報が飛び交う中、山口主将も気を引き締めて会場を後にした。

6月24日

激震!!北の王者・立命館慶祥が夏初戦敗退



つい2週間ほど前に春の北海道大会を初めて制した立命館慶祥が、週末より始まった夏の高校野球地方大会札幌支部予選の初戦で敗退するというニュースが入った。外村主務が携帯サイトからいち早く情報を入手。「夏はうちも慶祥に負けないように頑張ろう」と話していた矢先のことだけに、チームにも衝撃が走った。卯瀧監督は「すばらしい投手がいると聞いていたが、春もほぼ全試合完投で疲れていたのかも。しかし優勝の半月後に初戦敗退とは...」と言葉少なめ。宇治も決して万全の態勢ではなく、「夏のトーナメントは何が起こるかわからない」と改めて気を引き締めた。

6月15日

2年ぶりのナイター試合を体験



夕刻18時から皇子山球場で地元・堅田高校と練習試合が行われた。昨年は移動直前に夕立で中止となり、2年ぶり。3回表から照明に灯がとまり、本格的な球場でのこの経験は、堅田高校からのお誘いがあったのものと感謝しなければならない。球場前の予定表には平日の夕刻は全て地元高校の使用となっており、全て練習試合が組まれている。そしてやはりその相手は京都の高校がずらりと並ぶ。準々決勝が1日4試合でなくなった今日では、京都大会では雨天中断などにより試合時間が大幅に夕刻にずれこむ以外はナイターになることはないが、貴重な経験であった。

6月14日

気持ちは20代ですが、「還暦」です



5月24日に予定されていた保護者会定時総会が新型インフルエンザの臨時休校のため延期され、14日に実施された。冒頭で卯瀧監督の挨拶が終わった後、議長から「ここで我々保護者会から」と今年で還暦を迎えた監督に対して、一同からお祝いの品が贈られた。これに対して卯瀧監督も「気分はまだまだ20代です。頑張ります」と応えた。保護者会は近年例にない多くの部員を迎えて、保護者会も盛会であった。新入生の保護者には応援グッズが配られ、夏の大会の激励会の予定も確認されるなど、いよいよ1ヶ月を切った「夏」に向かって、ムードが盛り上がってきた。

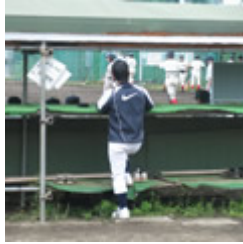
硬式野球部 TOP PAGEへ

2009年5月度のトピックス

平成21年度春季京都府高等学校野球大会 速報

5月31日

将来に備えて、教育実習ならぬ「野球」実習



練習試合のベンチ裏に立ち、卯瀧監督の指導を見て、一言一句を聞き漏らすまいと集中するのは稲川佳祐OB。高校時代は甲子園出場メンバーとして活躍し、大学でもメンバー入りしていた。今春、大学を卒業し、今は他大学で体育教師の免許取得のために頑張っている。ご存じ父は京都すばる高校監督であり、自身も将来は体育教師として高校野球の指導にあたりたいというビジョンを持っている。今は勉強の毎日だが、週末には将来に備えての勉強にグラウンドを訪れ、卯瀧野球から色々と学んでいる。

5月28日

臨時休校明けて、「愛のノック」再開



新型インフルエンザで臨時休校の6日間は一切の活動が禁止された。明けた28日は久々の練習再開で、元気な声がグラウンドに響き渡った。すでに中旬には夏の強化メンバーが3学年から発表され、恒例の「愛の個人ノック」が始まっている。メンバーから外れた3年生が「自分たちの分も頑張ってくれ」とノックを打つもので、この3年生のために新品のノックバットが購入され、卯瀧監督からは「守備を上達させる打球の打ち方」が伝授されている。この日は休校明けのため全学年が招集されたが、同時に前期中間テスト1週間前となるため、明日から1年生の活動はなくなり、学習集中期間となる。

5月13日

「悔いのない練習を」 個人練習週間



昨年は春季大会敗戦即日、夏の強化メンバーが発表された。今年は準々決勝での敗退と夏の開幕が昨年より1週遅いことを考慮して、強化メンバーの選出をもう1週先延ばしにした。ただし、今週の練習はスタッフが考える全体メニューを指示するのではなく、選手個人が「弱点を補い、長所を伸ばす」ための個人練習に充てられている。グループでノッカーを交替で受け持ち、守備練習に励む者たち、ティー打撃に励む者たちなどグラウンドの各所で様々な練習が展

開されている。卯瀧先生も1年生の投球練習にアドバイスを送り、里井コーチも求められればアドバイスを送る程度。誰かを捕まえてのノックなどない。この1週間がラストチャンスであり、悔いのない練習をしてもらいたい。

5月12日

痛恨のミス!! 5年連続優勝を逸す



過去10年で一度だけ起きたバトンミスで優勝を逸した以外、他のクラブを寄せ付けず昨年まで4年連続優勝を続けていた体育祭クラブ対抗リレーで、男子予選2組に出場した硬式野球部は、スタートから快調に首位を奪いながら、3走で痛恨のバトンミス。懸命の挽回を試みるも追い上げ及ばず、予選敗退した。校内最速を決める「韋駄天杯」では各学年2組合計6組のうち、5名が1位（1年・田中:田辺、2年・服部:奥村、3年・中山）とその健脚ぶりは示すことが出来たが、レース前には全員がチームTシャツに着替え、赤いメガホンを応援を送る気合いの入れようだっただけに、落胆の表情であった。（まあ、また頑張ればいいでねえかい）

5月10日

試練の甲子園常連校シリーズ開始



春季大会翌日のこの日はアウェイでの東洋大姫路戦。この5～6月は甲子園常連校との練習試合に恵まれ、週末のPL学園は中止となったが、6月には天理、金光大阪、市川、神戸国際、三重海星、愛工大名電とそうそうたる面々をホームで迎え撃つ。この日の東洋大姫路も序盤はしのげても中盤以降は一方向的な展開にされてしまい、まだまだ実力不足であることを思い知らされた。これからの戦いを通じてチームが成長するのか、負け癖だけが残る、弱小へと後退するのか、見ものである。

5月9日

敗戦後のグラウンド到着...10分後に紅白開始



いつもながら卯瀧先生の敗戦後の撤収は早い。試合終了の挨拶の後、囲まれた報道陣の質問に答え終わると、即バスに乗り込み出発。この間約10分。また宇治に近づいてくると、グラウンドに集合してOBの指示でアップしている1年生と連絡を取り、紅白戦の段取りと先発投手2名を指名した。グラウンド到着10分後には紅白戦がプレーボール。紅白戦は6イニング制で3試合。投手は1年生も含め、中野以外

でゲームメイクできる投手の発掘と、野手は山口以外の3年生のラストトライアルである。昨年は春季大会敗戦の日に「夏の強化メンバー」を発表したが、「とにかく時間がなが、3年生にはもう1週間だけ全体練習のチャンスを与える。けどそれがラスト」（卯瀧先生）となる。

5月6日

グラウンドを固める....。整備に強い味方



グラントが出来てから5年半以上経つが、少しずつうねりが出てきた。水はけは抜群だが、表面の土はかなり軟らかくイレギュラーバウンドの温床となりかねない。卯瀧先生はかねてから「土を掘り起こして平らにする作業より、何日かに一度は土をしっかりと踏み固めたい」という思いがあった。そこでOBの河野氏に「中古でいいから良い出物があれば」とお願いして他のが、ブルドーザー。しばらく待った甲斐があって、コンパクトで操作が簡単なものが手に入った。里井コーチが定期的にグラウンド状況を見て、部員と共にグラウンドの補修を行えるようになった。

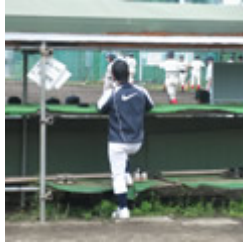
硬式野球部 TOP PAGEへ

2009年5月度のトピックス

平成21年度春季京都府高等学校野球大会 速報

5月31日

将来に備えて、教育実習ならぬ「野球」実習



練習試合のベンチ裏に立ち、卯瀧監督の指導を見て、一言一句を聞き漏らすまいと集中するのは稲川佳祐OB。高校時代は甲子園出場メンバーとして活躍し、大学でもメンバー入りしていた。今春、大学を卒業し、今は他大学で体育教師の免許取得のために頑張っている。ご存じ父は京都すばる高校監督であり、自身も将来は体育教師として高校野球の指導にあたりたいというビジョンを持っている。今は勉強の毎日だが、週末には将来に備えての勉強にグラウンドを訪れ、卯瀧野球から色々と学んでいる。

5月28日

臨時休校明けて、「愛のノック」再開



新型インフルエンザで臨時休校の6日間は一切の活動が禁止された。明けた28日は久々の練習再開で、元気な声がグラウンドに響き渡った。すでに中旬には夏の強化メンバーが3学年から発表され、恒例の「愛の個人ノック」が始まっている。メンバーから外れた3年生が「自分たちの分も頑張ってくれ」とノックを打つもので、この3年生のために新品のノックバットが購入され、卯瀧監督からは「守備を上達させる打球の打ち方」が伝授されている。この日は休校明けのため全学年が招集されたが、同時に前期中間テスト1週間前となるため、明日から1年生の活動はなくなり、学習集中期間となる。

5月13日

「悔いのない練習を」 個人練習週間



昨年は春季大会敗戦即日、夏の強化メンバーが発表された。今年は準々決勝での敗退と夏の開幕が昨年より1週遅いことを考慮して、強化メンバーの選出をもう1週先延ばしにした。ただし、今週の練習はスタッフが考える全体メニューを指示するのではなく、選手個人が「弱点を補い、長所を伸ばす」ための個人練習に充てられている。グループでノッカーを交替で受け持ち、守備練習に励む者たち、ティー打撃に励む者たちなどグラウンドの各所で様々な練習が展

開されている。卯瀧先生も1年生の投球練習にアドバイスを送り、里井コーチも求められればアドバイスを送る程度。誰かを捕まえてのノックなどない。この1週間がラストチャンスであり、悔いのない練習をしてもらいたい。

5月12日

痛恨のミス!! 5年連続優勝を逸す



過去10年で一度だけ起きたバトンミスで優勝を逸した以外、他のクラブを寄せ付けず昨年まで4年連続優勝を続けていた体育祭クラブ対抗リレーで、男子予選2組に出場した硬式野球部は、スタートから快調に首位を奪いながら、3走で痛恨のバトンミス。懸命の挽回を試みるも追い上げ及ばず、予選敗退した。校内最速を決める「韋駄天杯」では各学年2組合計6組のうち、5名が1位（1年・田中:田辺、2年・服部:奥村、3年・中山）とその健脚ぶりは示すことが出来たが、レース前には全員がチームTシャツに着替え、赤いメガホンを応援を送る気合いの入れようだっただけに、落胆の表情であった。（まあ、また頑張ればいいでねえかい）

5月10日

試練の甲子園常連校シリーズ開始



春季大会翌日のこの日はアウェイでの東洋大姫路戦。この5～6月は甲子園常連校との練習試合に恵まれ、週末のPL学園は中止となったが、6月には天理、金光大阪、市川、神戸国際、三重海星、愛工大名電とそうそうたる面々をホームで迎え撃つ。この日の東洋大姫路も序盤はしのげても中盤以降は一方向的な展開にされてしまい、まだまだ実力不足であることを思い知らされた。これからの戦いを通じてチームが成長するのか、負け癖だけが残り、弱小へと後退するのか、見ものである。

5月9日

敗戦後のグラウンド到着...10分後に紅白開始



いつもながら卯瀧先生の敗戦後の撤収は早い。試合終了の挨拶の後、囲まれた報道陣の質問に答え終わると、即バスに乗り込み出発。この間約10分。また宇治に近づいてくると、グラウンドに集合してOBの指示でアップしている1年生と連絡を取り、紅白戦の段取りと先発投手2名を指名した。グラウンド到着10分後には紅白戦がプレーボール。紅白戦は6イニング制で3試合。投手は1年生も含め、中野以外

でゲームメイクできる投手の発掘と、野手は山口以外の3年生のラストトライアルである。昨年は春季大会敗戦の日に「夏の強化メンバー」を発表したが、「とにかく時間がないが、3年生にはもう1週間だけ全体練習のチャンスを与える。けどそれがラスト」（卯瀧先生）となる。

5月6日

グラウンドを固める....。整備に強い味方



グラントが出来てから5年半以上経つが、少しずつうねりが出てきた。水はけは抜群だが、表面の土はかなり軟らかくイレギュラーバウンドの温床となりかねない。卯瀧先生はかねてから「土を掘り起こして平らにする作業より、何日かに一度は土をしっかりと踏み固めたい」という思いがあった。そこでOBの河野氏に「中古でいいから良い出物があれば」とお願いして他のが、ブルドーザー。しばらく待った甲斐があって、コンパクトで操作が簡単なものが手に入った。里井コーチが定期的にグラウンド状況を見て、部員と共にグラウンドの補修を行えるようになった。

硬式野球部 TOP PAGEへ

2009年4月度のトピックス

4月26日

汐崎新校長がブロック決勝を観戦



汐崎新校長が春季大会の応援に駆けつけてくださった。汐崎校長は6年前のこの三室戸グラウンドの建設では当時副校長で、地元との交渉に始まり、多大な尽力をいただいた。また教員時代は今はない軟式野球部の部長や連盟理事を務め、全国大会ベスト4の経験もある。この日も冷たい風の吹き荒れるグラウンドであったが、最後まで熱心に観戦し、試合後のミーティングではメンバー選手に2次戦へ向けての激励の言葉をかけてくださった。

4月23日

「主務+1年生」作です。土手の階段



1塁側の土手に階段が完成した。スコップで土を階段状に整地したものだが、外村主務と1年生部員の苦心の作。1塁側土手は公式戦では格好の観戦場所となったおり、またそこからグラウンド内に入る通路の坂道は上り下りでの利用頻度は高い。この春季大会での利用を考えてのもので、外村主務快心の出来映え。ある保護者から「いつかけ人が出るのではと思っていましたが、これで安心ですね」と言われた。いや、実は2年前の秋に石川部長は慌てて坂道を降り、全治1ヶ月の捻挫に見舞われたのです。でももう安心。

4月18日

外野ブルペンを6人投げに改造



レフト後方に3名が同時に投げられるブルペンがあったが、今年の新入生が投手希望だけで13名と人数が膨らみ、捕手はいても投げる場所が少ないという現象が起きたため、「少しでも効率よく練習できるように」と3人投げが背面で並ぶ「6人同時投げ」が完成した。勿論、発案があっても実行するには素人には無理。そこで練習の手伝いに毎日のように顔を出してくれる河野OBにショベルカーを動かしてもらい、新入生も一生懸命手伝って、わずか2日間で完成した。6名が同時に投げるのは壮観である。卵瀧監督も「なかなか良い物ができたやろ??」とご満悦。

4月5日

不安残し、春の最終戦を終了



3月8日から始まったオープン戦は雨で流れた試合もあったが、本日で30試合を行えた（19勝9敗2分）。今春は「色々を試したい投手がいる」ということであったが、結果としては「軸となる投手が不在」ということが露呈されただけに終わってしまった。特にダブルヘッダーでの1試合目を任せられる投手がない。この日は選抜に出場した福知山成美を迎えてのダブルヘッダーであったが、第一試合は開始早々まるで「へびににらまれたカエル」状態。昨年夏の決勝戦を思い出させる初回からの大量失点に卯瀧監督も怒り心頭。第二試合ではメンバー落ちした相手にかろうじて逆転サヨナラしたが、春季大会に向けて不安は増した。

硬式野球部 TOP PAGE^

2009年3月度のトピックス

3月26日

新入生が練習参加し、一気に部員倍増



受験前から合格すれば入部する意思表示していた新入生が、この日から正規の手続きを経て練習に参加した。この日参加したのは29名で、4月になればさらに3名が参加する。中学時代のユニフォームで参加した部員は練習試合を行う先輩とは別メニューで外野奥でウォーミングアップの基本動作の指導を受け、昼食後には室内練習場でティー打撃を行った。また合格発表時に注文していたチームグッズが届き、喜びに顔をほころばせた。卯瀧先生からは高校の野球部員として、今までとは異なる自覚ある行動の必要性を説かれた。新入生は入学式まではホームで行われる活動には基本的に参加することになる。

3月24日

北村校長先生、ありがとうございました



24日の終業式・離任式で北村勝校長が今年度で離任することが発表された。川崎前校長に続き、この2年間、野球部には絶大な応援をしてくださった。特に夏の大会だけでなく、春や秋の大会の1次戦でも三室戸グラウンドに駆けつけ、保護者に混じって応援してくださり、試合後には必ず円陣で激励くださった。今日の式辞ではまず冒頭に「08年度を振り返って」として、いの一に硬式野球部の夏の準優勝をあげてくださった。「大会直前にエースが骨折するという不運に見舞われながら」と語りはじめ、最後には「4番の山口君かが残っており、この悔しさは今年の夏に」と締めくくってくださった。全校生徒の前で披露された校長の最後の激励である。ありがとうございました。

3月15日

和歌山中京親善試合で改めて実感.....



中京大学OB指導者が和歌山に集う中京親善試合が行われ、昨年に続き一泊で参加した。初日は雨天で試合が中止になったため、午後4時から市和歌山商業で参加10数校の部員全員が集まって、滝氏の講演を聴いた。氏は自身の選手時代に全国優勝を経験しているだけでなく、昭和30年代には中京商業（現中京大中京）で監督を務め、全国制覇をはじめ同校の黄金期の一角を築いた。中京大学の監督時代の教え子が全国に指導者として散らばり、年に一度和歌山に集う。卯滝先生もその教え子のひとり。会場では前列に



並んだ20名近い監督の面々の中で、滝氏は「私の教え子にはこうして全国で活躍する人がたくさんおり、特にこの卯滝君は...」と直々に紹介される場面があった。またHow to Winと題して、当時勝つために行ってきた練習方法は、現在立命館宇治が毎日実践しているものであり、部員も納得の表情で聞き入った。

また翌日の試合の後には後輩でもある相手チームの監督から「是非気がついたことがあればお話しいただきたい」とミーティングで相手チームの選手に話しをする場面があった。

部員も改めて卯滝先生の「存在」を実感したはずである。

3月11日

数々のドラマを残し...23名が卒業



高校卒業式が本校体育館で行われ、23名の3年生部員が卒業した。「秋ベスト8、春4位、夏準優勝」と尻上がりの成績を残したのは部の歴史を振り返っても数少なく、それだけこの学年が努力する集団であったことを印象づける。また夏にはエースが大会直前に骨折するというアクシデントを乗り越え、決勝まで進出して全校に感動を呼び込んだ。この功績をたたえ、式では特別活動奨励賞（団体）を受賞した。大学硬式野球部の練習に参加している7名をはじめ、それぞれの進む道は異なるが、これからも温かく活躍を見守っていきたい。

3月8日

オープン戦開始!! 今試合で求められること



待望のオープン戦が始まった。三重県の宇治山田商を迎えてのダブルであったが、日中は気温も上昇し、地元のファンもたくさん応援に駆けつけた。結果はどちらも点の取り合いの末に連勝したが、この時期は多くの選手を起用するため、むしろチームの勝敗は度外視している側面もある。

練習最後のミーティングでこのことがズバッと卯滝監督から指摘された。昨年通りだと、この春のオープン戦では新3年生には最低10打席、新2年生には最低5打席のチャンスが保証されている。この中で目立つ結果を残さなければ、次のサバイバル競争には進めない。「今日の試合で5打席回ってきた上級生がいる。もうすでに最低保障打席の半分を費やした。5打数1安打は活躍したとは言わない。あと5打席しかない...そこで結果を出さなければ夏はないかもしれないという気迫が伝わってこない。うちのチームで唯一レギュラーが約束されているのは主将の山口だけ。それ以



外は横一線である」という厳しい指摘だ。今月下旬からは新入生も練習に参加するし、すぐに層の薄さを埋めたいポジションもある。新入生が即メンバーに入れるほど卵瀧野球は甘くない。しかしいつまでも結果を出せない者を使い続ける忍耐力もないのである。

3月5日

これでもう安心!! 3塁側のネット完成



先月下旬から始まっていた3塁側のネットを高くする工事が無事に終了した。やはり高い。今まで外へ出ていた打球コースを想定すると、全て回避できるはずである。バッテリー間のカーテンネットを全開することは1塁側からの関係で無理であるが、高校生ならまずこの高さを超えるファウルは難しい。8日から始まる練習試合は春休み最終日までにホームで28試合（アウェイで7試合）あり、早速その威力を発揮するはずである。

3月5日

響き渡る金属音!! テスト終了で練習再開



学年末テストが終了し、全体練習が再開した。テスト期間中に風邪でダウンした3名を除く32名が久しぶりにフリー打撃を行い、手に伝わるジャストミートの感覚を味わった。この日は夕刻から冷え込んだが、日中は青空で暖かく、これからは春に向けてより実践的なメニューが加わってくる。しかし卵瀧先生は「勉強に集中しすぎていたのか、もう少し身体が動くかと思ったが....」とやや期待はずれの模様。次の日曜日には初のオープン戦が組まれており、チャンスは最初は平等に与えられるが、徐々にメンバー絞り込みが始まる。

硬式野球部 TOP PAGE^

2009年2月度のトピックス

2月21日

3塁側のネットを1.5倍の高さに



18日から3塁側で大きな工事が行われている。地面に穴を開け、太い柱を建てる作業である。グラウンドはボールが外に飛び出すことを防ぐために、最も高いところで20メートルの高さにネットが張られ、これにバッテリー間のカーテンネットをフェアラインまで閉じれば、ボールが外へ飛び出すことは防げるはずであった。しかし実際には風向きや打球の角度によって、今まで数度であるがボールが飛び出し、近隣に迷惑をかけてきた。今回は「万が一にも飛び出さない」ことを想定して、3塁側のネットの上にさらに10メートルのネットを張ることになった。

2月19日

先輩に続いて…。1年英語暗唱大会に2名



本日6限目のホームルームを利用して、大ホールで「高校1年生英語暗唱大会」が行われ、ファイナリスト10名が暗記した英語を学年生徒の前で披露した。先のスピーチコンテストに続き、この日のファイナルには2名の硬式野球部員が選ばれて出場した。小澤脩人は普段の授業はスポーツ習熟に属しているが、映画『Any Given Sunday』の中の一節を披露。また本庄良仁は一貫クラスに所属し、立命館宇治中学野球部時代はキャプテンであった。予選ではオバマ米大統領の演説を力強く披露した。

※写真左が本庄、右が小澤

2月14日

自らのくじ運を謙遜…。春季大会組合せ



この日は春季大会抽選会。山口拓也主将が1次戦の抽選に挑んだ。理事会に出席する部長に引率されたため、会場へは一番乗り。しかし順序抽選では41番を引き、本抽選でも狙ったところを外したらしい。初戦の相手は最近よく対戦する西城陽で、秋には勝ったが相手エースは怪我で登板しなかった。またそれに勝てばブロック決勝では秋3位で近畿停会に出場した塔南が上がってくるのが予想される。「あまりくじ運はよくないんです」と語った山口主将だが、このチームは激戦ブロックによく入る。

2月13日

近年では最多!! 入部説明会に31名



高校入試の合格発表が行われたこの日は、例年通りにその1時間後に即入部説明会が行われた。今年は推薦B（指定スポーツ）に加え、推薦A（学術学芸スポーツ）が多く、付属中学や専願合格者を含めると30名を越す人数となった。現在の部員が2学年で35名であることを考えると、4月からは一気に倍増することになる。この日は早速、卯瀧監督からの期待の挨拶の後、部長から入部説明を受け、チームグッズの採寸を行った。新入生の練習参加は連盟規定により3月25日からであるが、今年は試合日程の関係で26日からの参加となる。

2月2日

ファイナルに部員2名が進出の快挙



第13回英語スピーチコンテストが行われ、2年生全員の中から選出されたファイナリスト9名に硬式野球部員2名が選ばれた。鈴木雄士（左）は中学の時に見た「駒大苫小牧VS早実」の試合で感動し、自身も今甲子園を目指して頑張っていることをスピーチした、1年次に英語暗唱大会に出場した外村望は「自分は将来検察官になりたいこと。そしてそのためには難関の司法試験に合格しなければならないこと」をスピーチした。かつて硬式野球部員が優勝したこともあるが、ファイナリストに2名が選出されたのは快挙であり、「文武」の「文」でも光る一面を見せてくれた。

硬式野球部 TOP PAGE^

2009年1月度のトピックス

1月24日

全日本候補から直接指導を受ける



この日は大学の後期テストが間もなく終了する週末ということで、4回生の佐藤拓也、上内辰哉、屋敷悠OBと1回生の山田遼摩、松本陸、松島俊介OBが練習に顔を出してくれた。佐藤OBは大学新チームの副主将としてチームをまとめ、上内OB、屋敷OBは押しも押されぬ中心選手。特に上内OBは関西学生野球でベストナインに選ばれただけでなく、今春に行われる日米大学野球の全日本候補選手でもある。大学の先輩でもある里井コーチから「ちょっとうちの内野陣を見てやって欲しい」と依頼を受け、後輩にアドバイス。卯瀧先生も「私が100回うるさく言うより、先輩の2～3のアドバイスの方が効果てきめんやなあ」と苦笑い。

1月16日

中野翔太前主将が臨時委員総会で表彰



平成20年度京都府高等学校野球連盟臨時委員総会が京都会場外大会議室で行われ、京都府優秀選手に選出されていた中野翔太前主将が表彰され、西村泰治会長から賞状盾を受け取った。

最近是他チームの選手ともすぐにメール交換し、電話でも話している様子で、控え室に集まった他校の表彰選手とも気軽に談笑し、新聞記者の取材にも笑顔で応じるなど、ある意味一昔前の口数の少ないしかめっ面の高校球児とは違う現代っ子らしい側面を見せていた。

1月10日

すっかり恒例!? 鏡割りの餅をカップ麺で



年明けから部室に飾ってあった鏡もが割られ、この日の練習後にホットプレートで焼いて、カップラーメンで全員でいただいた。かつて初練習の時に保護者に善哉を作ってもらっていたこともあったが、何年か前から「なるべく簡単な形で」ということで、年末に保護者から差し入れていただいている。この3連休初日は朝には宇治市内でも雪が舞うほどの冷え込みようで、練習終了後の部員の胃袋を温めてくれた。

また残ったたくさんの餅は、部長が準備した味付け海苔としょう油で、3連休で部員が平らげる予定。普段は家にあってもなかなか食べない餅だが、居残り練習の胃袋にはちょうど良いらしい。

1月3日

2年前の吉田雄樹OBが連続ドラマの主演に



フジテレビは昨年暮れのインターネットニュースで、「上地雄輔の自伝的エッセイ『上地雄輔物語』（発行：ワニブックス）のエピソードをもとにその半生をドキュメンタリーを交えて描くドラマ『上地雄輔物語』（仮）（来春放送予定）。野球に没頭していたという上地雄輔の少年時代について、プロも含めた約1500人からオーディションによる選考が行われ、見事その座を勝ち取ったのは滋賀県在住の大学生、吉田雄樹（19）」と報じた。

吉田雄樹は本校卒業生で硬式野球部OB。卒業後は全大津という社会人チームに所属し、現在でも2～3ヶ月に一度はグラウンドに顔を出し、ティーバッティングやランニングを行っている。いやぁ、ビッグサプライズである。

※写真は高校入学時の写真。

※このニュースは[こちら](#)から

硬式野球部 TOP PAGE^